

地域とともに成長する企業でありたい！実践型健康経営

株式会社北日本ジオグラフィ

「地域（まち）が元気でなければ企業も成長しない」と、現在、二つの課題解決活動を継続的に実施しています。

【耕作放棄地の復旧活動】

測量で訪れる地域は中山間地が多く、そこにはいわゆる限界集落と言われる地域が存在しています。そして、その限界集落には、必ずと言っていいほど耕作放棄地が点在し、深刻な課題を抱えています。

その課題の一つが、熊やイノシシの被害です。未整備の農地が多いと熊やイノシシが出没し、耕作地が被害にあってしまいますが、被害を防ぐにも耕作放棄地の復旧が必要になります。しかし、地域の方だけでそれらを復旧することは不可能です。

そこで、中山間地の課題である耕作放棄地の復旧について、従業員全員で課題を共有し、全員で耕作放棄地を耕すことにしました。

耕作放棄地の復旧活動を始める前には、地域の方と何度も何度も打合せを行い、復旧して終わりではなく、その後の活用方法についても検討しました。活用方法として、復旧した農地を「レンタル農園」にして市民に貸し出すことにしました。

結果として、耕作放棄地を畑ができる状態にまで復旧させ、レンタル農地にして様々な作物を作ってもらい、それらの農園で育ててもらった作物を朝市で毎週販売してもらい、その地域に人が集まるという仕組みを作り出しました。

従業員 30 人と地域の方との協力で得られたのは、耕作放棄地が広がる限界集落から、他の地域へのお手本となるような魅力的で誇れる地域への再生でした。



【能登島のオリーブ畑整備活動】

石川県七尾市の能登島では、オリーブ畑の整備活動に毎年携わっています。この活動は、オリーブ畑を整備されている方の「能登島にオリーブ畑をすることによって人が集い、将来子供たちが能登島で農業に就ける環境を作りたい」という想いに共感したことから始まりました。

オリーブの栽培が困難だと言われている石川県の能登島という地域での挑戦ということで、「ならんこともないやろ能登島にオリーブ」プロジェクトと名付けられ、その活動の初年度から私が参画し、その後、従業員と一緒に活動しています。

能登島のオリーブ畑では、畑を囲むように生える竹の伐採や背丈まである草むしりを行いました。その作業の中で、隣接している老人保健施設の皆さま



んが畑周辺を散歩コースにできるように、畑の法面に丸太などを利用しながら 10 段ほどの階段づくりも行いました。測量現場で活躍するドローンで、オリーブ畑の整備後の様子を空から撮影し、写真を HP で活用してもらいました。

また、竹の伐採や草むしりといった畑の整備だけではなく、オリーブの木の植樹も行い、毎年その成長を見守ってきました。植樹をしたことで、能登島という地域が従業員にとっても特別な場所となり、毎年その地を訪れて整備をしたり、地元で食事をしたりすることが楽しみに感じるようになっていきました。

現在でも、従業員の気持ちの変化を感じながら、オリーブの成長とともに能登島の活性化のために整備活動が続けることができます。



(上) オリーブの苗木



(左) 階段づくりの法面 (右) 階段づくり完成間近

【活動を通して】

これら二つの活動のように、地域の方と触れ合い一緒に課題を解決していくことで、地域に必要とされる存在であり続けたいと思い活動を続けています。

また、測量業務とは、測量を通して街づくりの一翼を担っている大切な仕事であることを、地域貢献活動によって、従業員自らが現地で感じ取り、自分の仕事に誇りを持つことにもつながっています。

以上の活動は、理念である「社会・家族に対して誇れる会社であり続ける」の実現のために、弊社内にある“社会貢献委員会”を中心に企画実施しています。今後も、計画的・継続的に実施していく体制も備えています。

(※社会貢献委員会・・・部署や業務に関係なく、社内で横断的に構成されている 4 つの委員会の中の一つ)